

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：33303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K11130

研究課題名(和文)わが子の育児と親の介護を同時に担う日本人女性ダブルケアラーの経験

研究課題名(英文) Experiences of Japanese women simultaneously caring for children and older people:

研究代表者

杉山 希美 (SUGIYAMA, Kimi)

金沢医科大学・看護学部・講師

研究者番号：10527766

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、わが子の育児と親の介護を同時に担う日本人女性ダブルケアラーの経験を明らかにした。女性ダブルケアラーは、【育児と介護の両方を自分の役割として受け入れる】【母親の役割を果たせていない】【子どもと祖父母に支えられる】【介護の負担を誰にも相談できない】【ケアだけではない生き方に気づく】であった。女性ダブルケアラーは、日本の伝統的価値観の影響を受けていた。女性ダブルケアラーは使命感をもち、ケア役割を受け入れていた。そして、母親としての役割を果たせないことに罪悪感を抱き、理解者がいない孤独を感じていた。以上より、女性ダブルケアラーの支援システムを開発する必要性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本は急速な少子高齢化と女性の晩産化の進行により、今後、女性ダブルケアラーの増加が見込まれている。これまでわが国の女性ダブルケアラーの実態は量的な実態把握が中心で、質的な実態把握はほとんど把握されていない。本研究の結果は、わが国の社会文化的な文脈による女性ダブルケアラーの経験を質的に把握することによって有効な支援を検討するための一助となり、学術的意義や社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study revealed the experiences of Japanese women who are simultaneously responsible for childcare and caregiving. Among them were: "I accept both childcare and caregiving as my role," "I cannot fulfill my role as a mother," "I am supported by my children and grandparents," "I cannot talk to anyone about the burden of caregiving," and "I realized that caregiving is not the only way of life. Japanese women who care for both children and the elderly were influenced by traditional Japanese values. However, these women had a sense of mission and accepted their role in providing for their families. They felt guilty for not being able to fulfill their role as mothers, and they felt lonely for not having anyone to understand or advise them. Therefore, it is necessary to develop a support system for female caregivers.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：育児 介護 ダブルケア 女性 エスノグラフィー 質的研究

1. 研究開始当初の背景

現代の日本は、急激な少子高齢化の進行に加え、女性の社会進出が進展し、晩婚化および晩産化の傾向がみられる。加えて、きょうだい数が少なく、核家族の割合が高い背景の中で、女性が育児や介護のケア役割を同時に担うリスクが高まってきている。平成 27 (2015) 年度の内閣府委託調査によると、わが国の育児と介護を同時進行する者 (以下、ダブルケアラー) は推計 25 万 3 千人で、そのうち女性が 16 万 8 千人を占め、ダブルケアを行う女性の推計人口は、同男性の 2 倍と報告されている。しかし、この調査は、育児の条件を 6 歳未満の子どもに設定した調査であるため、ダブルケアラーの把握が限定的になっている。また、平成 29 (2017) 年の調査では、年代別の女性のダブルケア経験率は年代が上がるにつれ高くなり、50 歳代女性のダブルケア経験率は 41.1% であった。わが国の将来の人口統計の推移から、少子・高齢化および晩婚化・晩産化が進展することが予測され、育児と介護が同時期に重なるリスクは今後高まるという報告がされている。

ダブルケアラーの支援体制の構築に関する問題は、わが国のみの問題ではない。例えば、イギリスの介護者支援団体のケアラズ UK の報告によれば、イギリスのダブルケアラーは約 240 万人で、その多くが経済的に苦しく、仕事や家族との関係に悩み、ストレスや疲労で苦しんでいる。ダブルケアに関する研究は、海外において欧米を中心に Sandwich generation や Adult daughter Caregivers の研究として蓄積されている。これらの研究は、ナショナルデータを二次利用した量的研究であり、ダブルケアラーの保健行動の特徴や育児および介護の役割負担とストレスについて分析されている。しかし、これらの研究からはダブルケアラーがどのようにダブルケアすることを捉えているか把握できない。他方、ダブルケアラーの体験世界を明らかにした現象学的アプローチの研究があるが、ダブルケアラーの経験がどのように生じているのかを明らかにした研究はない。そのため、ダブルケアラーがわが子の育児と親の介護を同時に担うことをどのように捉えているか把握するための研究の蓄積が必要である。わが国では、ダブルケアラーの多数が女性であることに加え、50 歳代の女性の約半数がダブルケアの経験があるという結果から、本研究では研究対象を女性に焦点をあてて研究を行う。

ソニー生命保険の調査の結果より、日本人女性ダブルケアラーの平均年齢は、38.87 歳で、30～40 歳代で全年齢の約 8 割を占めている。この年代は、家計を安定・維持する役割を求められると同時に、国の政策として女性の社会進出が期待され、社会経済の支えとなる重要な存在である。ダブルケアラーの育児と介護の負担感は、「育児のみ主に行う者」と「介護のみ主に行う者」と比較して男女とも高く、健康状態を悪化させるリスクが高い集団といえる。また、ソニー生命保険の調査によると、日本人女性のダブルケアラーの負担感は、精神的・体力的な負担や、育児や介護の役割が十分に果たせないことに加え、家族の関係性に負担を感じていることが含まれている。ダブルケアラーは、子どもの母親、親 (義理親) を介護する娘 (嫁)、夫の妻というように、複数の関係性をもちながら生活していることが予測できる。わが国では、イエ制度による慣習が根強く残っていることから、嫁に対して介護者の役割を期待する慣習があり、女性に対して出産・育児・介護をはじめ家族の生活を維持する役割があまりにも大きな負荷となっている。さらに、ダブルケアを担うことで女性の社会進出を妨げる新たな要因になる可能性があり、本研究に取り組む社会的意義は高い。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが子の育児と親の介護を同時に担う日本人女性ダブルケアラーが複数の関係性の中でどのように生き、その経験をどのように捉えているのかを明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究では、わが子の育児と親の介護を同時に担う日本人女性ダブルケアラーの経験をよりよく理解するために、エスノグラフィーに基づく質的調査を実施した。データ収集方法は、ピアサポート活動のフィールドワークと中部地方でダブルケアの経験がある女性へのインタビューを対面及びオンラインで行った。インタビュー内容は、「育児や介護を担う中で、ご家族との関係性についてどのように感じているか」について尋ね、自由に語ってもらった。データ分析は、テーマ分析 (Green & Thorogood, 2018) の手順に基づいて行った。

本研究への参加基準は、18 歳未満の子どもの世話と親または義理親の介護を同時に行った経験があることとした。高齢者の介護とは、日本の介護保険法で要介護認定を受けた人の介護と定義した。障害のある子どもや配偶者を介護する個人、シングルマザーは除外した。

わが子の育児と親の介護を同時に担う中部地方の女性 14 名 (平均年齢: 47.3 歳、範囲: 35-59 歳) にインタビューを行った。その内訳は、ピアサポート活動を通じて知り合った女性介護者 5 名と、ケアラズ・カフェに参加しなかった女性介護者 9 名である。追加の 9 人の参加者は、ピアサポート組織のメンバーまたは地域包括支援センターのスタッフから研究への参加を依頼した。インタビューは、参加者のプライバシーが保護された会議室等で行った。インタビューは録音し、逐語的に書き起こした。各参加者へのインタビューは 1 回のみで、インタビュー時間は

69分から178分の範囲で平均115.9分であった。

本研究は、金沢大学医学倫理審査会(919-1、919-2)の承認を得て実施した。

4. 研究成果

わが子の育児と親の介護を同時に担う日本人女性ダブルケアラーの経験について、参加観察とインタビューデータの分析結果から、11のサブテーマ、5つのテーマが生成された。【育児と介護の両方を自分の役割として受け入れる】【母親の役割を果たせていない】【子どもと祖父母に支えられる】【介護の負担を誰にも相談できない】【ケアだけではない生き方に気づく】というテーマとサブテーマを示した。

(1)【育児と介護の両方を自分の役割として受け入れる】

このテーマは、[女性が守るべきは家庭での「暗黙のルール」][近隣の評判が気になる]という2つのサブテーマが含まれていた。女性の多くは、育児も介護も自分の役割だと捉え、親の生活を支えなければならないという使命感に近いものを感じていた。

(2)【母親の役割を果たせていない】

このテーマには、[子どもと親を同時にケアする必要がある][子どもを優先できない][子どもの精神的影響がずっと気になる]のサブテーマが含まれていた。女性は、子どもと親の食事時間、トイレの時間、お風呂の時間、睡眠の時間が同じになりがちで、必然的に両方のケアが難しく、どちらを優先すればよいか難しいと感じていた。子どもたちを優先できないと考えた結果、多くの女性は、自分が母親としての役割を果たせないことに悩んでいた。

(3)【子どもと祖父母に支えられる】

このテーマには、[子どもの祖父母を思いやる姿に救われる][子どもと祖父母の間で相乗効果が生まれる]サブテーマが含まれていた。この経験は女性たちにとって精神的な支えとなっていた。

(4)【介護の負担を誰にも相談できない】

このテーマには、[経験談を話せる人が限られている][夫になかなか相談できない]というサブテーマが含まれていた。女性たちは、介護を経験したことのない友人には、精神的苦痛や境遇を理解することはできないと感じていた。また、女性たちは義父母の介護についての悩みを夫に相談すると、夫が義父母を批判していると受け取ってしまうことを恐れたため、女性たちは夫に相談しなかった。

(5)【ケアだけではない生き方に気づく】

このテーマには、[ケアに振り回されている自分に違和感をもつ][仕事をすることでケアから解放される]サブテーマが含まれていた。女性たちは親の介護責任の「消耗」に違和感を覚えた経験を語った。また、働くことで介護責任から解放されると述べた。このような経験は、専業主婦の介護者に見られた。

わが子の育児と親の介護を同時に担う女性ダブルケアラーは、日本の伝統的な価値観の影響を受けていた。しかし、女性ダブルケアラーは使命感をもち、家族を養う役割を受け入れていた。女性ケアラーは、母親としての役割を果たせないことに罪悪感を抱き、周囲に理解者やアドバイスしてくれる人がいないため孤独を感じていた。以上より、女性ダブルケアラーのための支援システムを開発し、女性だけに介護責任を負わせることの潜在的な弊害について社会への理解を深める必要がある。

<引用文献>

株式会社NTTデータ経営研究所(内閣府委託調査). 平成27年度 育児と介護のダブルケアの実態に関する調査報告書, 2016.3.

ソニー生命保険. ダブルケアに関する調査 2018,

https://www.sonylife.co.jp/company/news/30/nr_180718.html(2019年4月30日アクセス)

Takeda Y, Kawachi I, Yamagata Z, Hashimoto S, Matsumura Y, Oguri S, Okayama A. The impact of multiple role occupancy on health-related behaviours in Japan: differences by gender and age. *Public Health*. 2006; 120(10): 66-75.

Chassin L1, Macy JT, Seo DC, Presson CC, Sherman SJ. The Association between Membership in the Sandwich Generation and Health Behaviors: A Longitudinal Study. *J Appl Dev Psychol*. 2010; 31(1): 38-46.

Michael Halinski, Linda Duxbury, Chris Higgins. Working While Caring for Mom, Dad, and Junior Too: Exploring the Impact of Employees' Caregiving Situation on Demands, Control, and Perceived Stress. *Journal of Family Issues*. 2018; 39(12): 3248-3275.

Alana M. Boyczuk, Paula C. Fletcher. The Ebbs and Flows: Stresses of Sandwich Generation Caregivers. *Journal of Adult Development*. 2015; 23(1): 51–61.

Barker KL, Minns Lowe CJ, Tøye F. 'It is a Big Thing': Exploring the Impact of Osteoarthritis from the Perspective of Adults Caring for Parents - The Sandwich Generation. *Musculoskeletal Care*. 2017; 15(1): 49-58.

山本則子. 家族介護とジェンダー, *家族看護学研究*, 6(2), 2001, 158-163 .

J. Green, N. Thorogood, *Qualitative Methods for Health Research*, fourth ed., SAGE, 2018.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kimi Sugiyama, Shizuko Omote, Rie Okamoto	4. 巻 9
2. 論文標題 Experiences of Japanese women simultaneously caring for children and older people: An ethnographic study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Heliyon	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.heliyon.2023.e20375	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kimi Sugiyama, Rie Okamoto, Shizuko Omote
2. 発表標題 Experiences of Japanese female caregivers who are simultaneously responsible for childcare and elderly care of their parents: An ethnographic study
3. 学会等名 The 7th ICCHNR conference（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	表 志津子 (OMOTE Shizuko) (10320904)	金沢大学・保健学系・教授 (13301)	
研究分担者	岡本 理恵 (OKAMOTO Rie) (50303285)	金沢大学・保健学系・准教授 (13301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------